

4 持ち直しの動きがみられた鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、2008年9月のリーマンショックによる世界的な景気後退の影響から、戦後類のない急速かつ大幅な落ち込みを記録した後、輸送機械工業を中心に持ち直しの動きがみられた。こうした中、11年は、東日本大震災やタイの洪水被害などの影響を受けて大幅な減産を余儀なくされた。12年は、前年12月に復活したエコカー補助金により、前半は輸送機械の生産が増加し、回復の動きがみられた。補助金終了後に減産となったものの、総じてみると回復基調で推移した。

(前年比で上昇した生産指数)

2012年の鉱工業生産指数(2005年=100)は92.2で前年比9.0%の上昇となり、2年ぶりに前年を上回った。業種別にみると、全22業種中、輸送機械工業、プラスチック製品工業、鉄鋼業など10業種で上昇し、情報通信機械工業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業など12業種で低下した(図表4-1)。

図表4-1 2012年の業種別生産指数(愛知県)

	(2005年=100) (%)			
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	92.2	9.0	9.0
鉄鋼業	646.2	91.1	3.2	0.214
非鉄金属工業	139.1	92.6	8.1	0.113
金属製品工業	352.7	86.5	3.2	0.113
一般機械工業	1207.4	76.6	-3.6	-0.414
電気機械工業	456.6	96.6	0.1	0.005
情報通信機械工業	182.7	30.3	-41.6	-0.466
電子部品・デバイス工業	262.1	70.9	-12.8	-0.322
輸送機械工業	4549.8	101.7	20.2	9.196
精密機械工業	33.2	80.3	-7.1	-0.024
窯業・土石製品工業	352.6	69.9	-4.5	-0.138
化学工業	267.9	114.8	3.7	0.130
石油・石炭製品工業	33.6	101.3	4.8	0.018
プラスチック製品工業	463.2	107.7	22.4	1.079
パルプ・紙・紙加工品工業	84.4	84.7	-5.5	-0.049
繊維工業	149.3	60.5	-4.1	-0.046
食料品工業	400.6	88.3	-6.3	-0.279
ゴム製品工業	166.0	95.2	-2.3	-0.043
家具工業	89.2	72.9	-7.7	-0.064
印刷業	113.8	66.0	-1.2	-0.011
木材・木製品工業	31.8	71.2	11.4	0.027
その他製品工業	14.5	78.9	0.4	0.001
鉱業	3.3	58.8	-5.9	-0.001

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

(全国と本県の状況)

本県における鉱工業生産に占める業種別のウェイト(2005年=100)をみると、輸送機械工業が45.5%と際立って大きく、これに次ぐ一般機械工業が12.1%と、この2業種だけで全体の60%近くを占めている。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は1.8%、電子部品・デバイス工業は2.6%と2業種合せても4.4%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2012年の業種別生産指数(全国)

	(2010年=100) (%)			
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	97.8	0.6	0.6
鉄鋼業	391.1	97.5	0.2	0.008
非鉄金属工業	232.5	98.2	2.2	0.050
金属製品工業	418.1	99.8	1.5	0.065
はん用・生産用・業務用機械工業	1273.1	106.5	-5.3	-0.786
電子部品・デバイス工業	818.6	87.2	-3.9	-0.295
電気機械工業	667.7	98.2	-1.7	-0.117
情報通信機械工業	453.4	77.2	-5.6	-0.215
輸送機械工業	1912.4	101.8	11.6	2.086
窯業・土石製品工業	315.8	97.3	0.6	0.019
化学工業	1277.4	96.4	-2.2	-0.289
石油・石炭製品工業	175.8	94.1	-0.3	-0.005
プラスチック製品工業	507.5	98.3	1.1	0.057
パルプ・紙・紙加工品工業	203.6	96.2	-1.6	-0.034
繊維工業	183.4	100.4	-2.3	-0.045
食料品・たばこ工業	613.9	97.7	2.2	0.133
ゴム製品工業	161	98.8	-0.1	-0.002
家具工業	67.3	102.5	0.6	0.004
印刷業	197.1	96.3	1.0	0.020
木材・木製品工業	58.4	99.8	-0.8	-0.005
その他製品工業	50.8	100.3	0.2	0.001
鉱業	21.1	101	1.0	0.002

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:経済産業省「鉱工業指数」

一方、全国(2010年=100)では、輸送機械工業が19.1%、はん用・生産用・業務用機械工業が12.7%、合計で31.8%となり、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は4.5%、電子部品・デバイス工業は8.2%と2業種合わせると12.7%となり、本県での割合の3倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、リーマンショックの影響を受けて、08年7-9月期に02年4-6月期以来25四半期ぶりに前年割れに転じて以降、10-12月期は前年同期比21.9%低下し、09年1-3月期は同47.4%低下と輸出依存度の高い輸送機械を中心に生産活動が急速に低下し、全国を上回る大幅な落ち込みを記録した。その後、海外経済の改善や世界各国で採られた経済対策の効果もあって、10年1-3月期には前年同期比がプラスに転じた。4-6月期以降は前年を上回る水準が続いていたが、東日本大震災によって生じたサプライチェーンの寸断により、11年1-3月期、4-6月期と再び大きな落ち込みを記録した。しかし、その後、サプライチェーンの復旧が急速に進んだ結果、マイナス幅は大幅に縮小し、10-12月期には前年同期比がプラスに転じた。12年に入って、エコカー補助金による効果から輸送機械を中心に生産活動が活発化し、1-3月期、4-6月期は大きく上昇した。7-9月期は、エコカー補助金効果の一巡や中国反日デモ等の影響から低下し、10-12月期にはマイナスとなった。13年1-3月期は、新政権の経済政策や日本銀行の金融政策により円安が急速に進み、生産は持ち直して指数は上昇し、4-6月期にかけてもその傾向は続いた。

一方、全国も、本県とほぼ同様の動きを示し、リーマンショックの影響を受けて、09年1-3月期は同33.2%低下と大きく落ち込んだ。その後は経済対策等の効果で、マイナス幅は徐々に縮小し、10年1-3月期には前年同期比がプラスに転じ、4-6月期以降は伸びが鈍化するも前年を上回る水準が続いていた。11年1-3月期、4-6月期は、震災の影響により低下し、年後半にはタイの洪水被害の影響からマイナスが続いた。12年1-3月期にはエコカー補助金の復活から前年同期比がプラスに転じ、4-6月期もプラスとなった。12年7-9月期以降は、エコカー補助金効果の一巡からマイナスとなった。13年1-3月期以降は北米向け自動車の生産の持ち直しがみられた(図表4-1、4-2、4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

(愛知県:2005年=100、全国:2010年=100) (%)

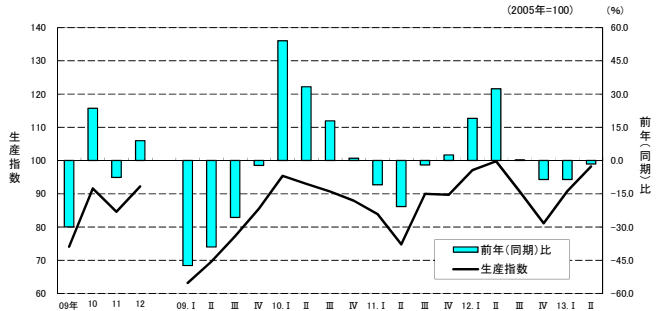
		愛知県		全国	
		指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2011	年間	84.6	-7.6	97.2	-2.8
	1-3	83.9	-10.9	96.9	-2.4
	4-6	74.8	-20.8	92.9	-6.6
	7-9	90.0	-2.0	99.5	-1.7
	10-12	89.7	2.5	100.5	-0.9
2012	年間	92.2	9.0	97.8	0.6
	1-3	97.1	19.0	101.3	6.6
	4-6	99.8	32.4	99.1	6.8
	7-9	90.6	0.3	95.9	-3.9
	10-12	81.1	-8.6	94.1	-5.9
2013	年間	-	-	-	-
	1-3	90.8	-8.6	94.7	-7.9
	4-6	98.2	-1.6	96.1	-3.1

注1: 期別の指数は季節調整済指数

注2: 対前年同期増減率は原指数から算出

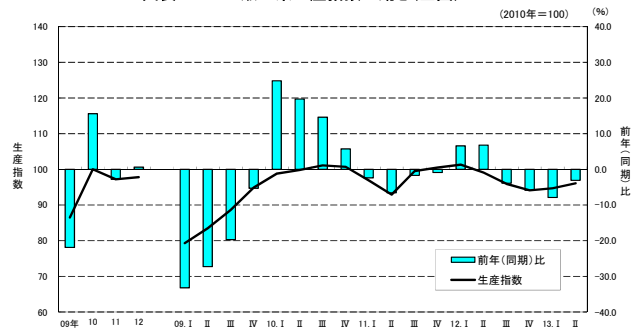
資料: 愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



資料: 愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



資料: 経済産業省「鉱工業指数」

(上昇した消費財と生産財、低下した投資財)

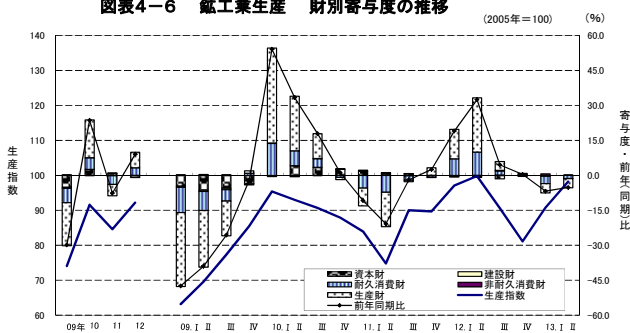
本県における2012年の生産を財別にみると、投資財のうち資本財は、前年比7.1%低下し3年ぶりの低下となった。また、建設財は、同2.2%上昇し6年ぶりの上昇となった。投資財全体では、同5.1%低下し3年ぶりの低下となった。

消費財のうち耐久消費財は、自動車の増産などにより同18.7%上昇し、2年ぶりの上昇となった。また、非耐久消費財は、同1.4%低下し6年ぶりの低下となった。消費財全体では、同13.6%上昇し2年ぶりの上昇となった。

生産財は、自動車部品などの増加により、同10.6%上昇し2年ぶりの上昇となった。

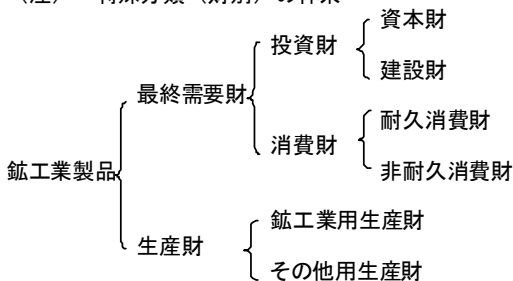
このように、12年は、消費財と生産財は前年から上昇したものの、投資財は前年から低下した(図表4-6)。

図表4-6 鉱工業生産 財別寄与度の推移



資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

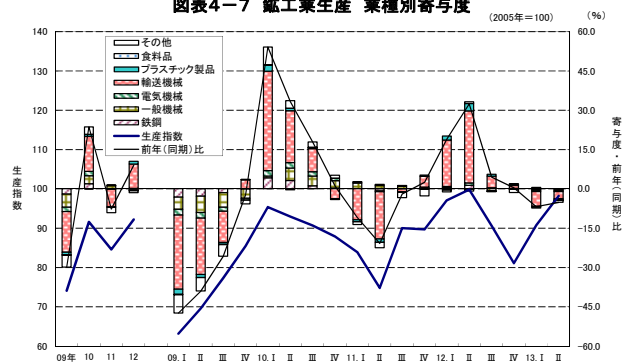
(注) 特殊分類(財別)の体系



(主要業種の動向)

2012年の主要業種の動向をみると、電気機械は3年連続、鉄鋼、輸送機械、プラスチックは2年ぶりに前年を上回る一方、一般機械と食料品は2年ぶりに前年を下回った。業種別の寄与度をみると、最もウェイトの高い輸送機械(前年比20.2%上昇)の寄与度は9.2%で鉱工業全体の伸び率を上回った(図表4-7)。

図表4-7 鉱工業生産 業種別寄与度



資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

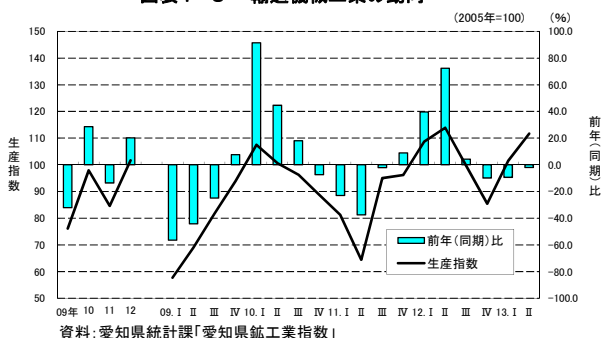
(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の2012年の生産指数は101.7で、前年比20.2%上昇し、2年ぶりに上昇した。これは、東日本大震災やタイの洪水被害による減産の挽回生産や、エコカー補助金などから自動車(同19.9%上昇)、自動車部品(同17.2%上昇)等を増産したことによる。

12年の生産指数の動きを四半期別にみると、1-3月期は前年同期比39.7%上昇、4-6月期は同72.4%上昇と、東日本大震災やタイの洪水被害からの挽回生産、国内・北米向けの低燃費車の生産拡大により大きな上昇がみられた。7-9月期にはエコカー補助金効果の一巡により同4.2%に低下し、10-12月期は同△9.9%へと低下した。

13年1-3月期、4-6月期は、北米向け自動車生産が堅調であったことなどから生産の持ち直しはみられたものの、前年のエコカー補助金効果の反動減から前年同期比を上回るまでには至らなかった(図表4-8)。

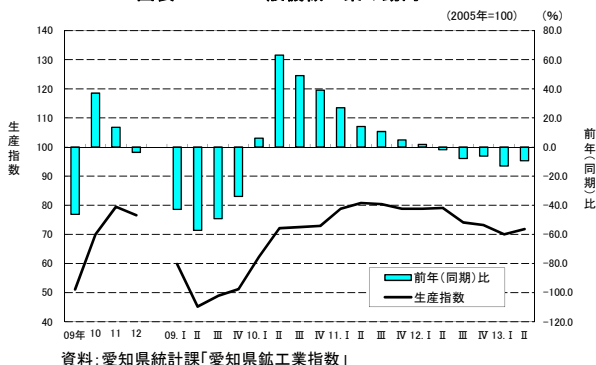
図表4-8 輸送機械工業の動向



〈一般機械工業〉

2012年の一般機械の生産指数は76.6で、前年比3.6%低下し3年ぶりに低下した。これは、金属加工機械が同21.3%低下し、海外向けの減少などから、金属工作機械が同8.7%、機械工具が同3.1%低下したことなどによる。

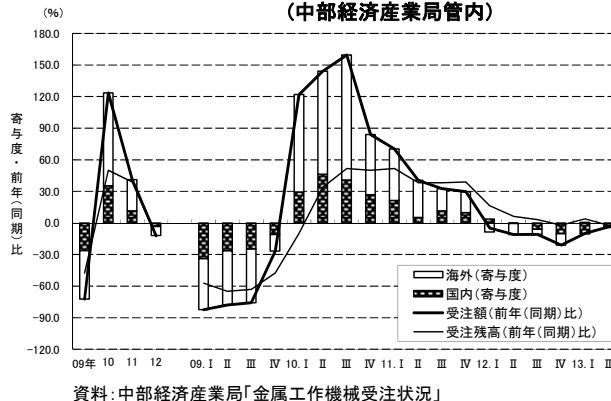
図表4-9 一般機械工業の動向



「金属工作機械受注状況」で中部経済産業局管内の金属工作機械メーカー主要8社の受注状況をみると、前年比12.0%減と3年ぶりに前年を下回った。国内受注は同11.0%減と、3年ぶりに前年を下回った。業種別では、電気機械工業(同35.1%減)、鉄鋼業(同31.7%減)など造船業以外の業種が前年を下回った。海外受注は同12.5%減と、3年ぶりに前年を下回った。地域別では、北米向けが同5.2%増となったものの、ヨーロッパ向けが同25.8%減、アジア向けが同16.9%減と3年ぶりに前年を下回った。国別では、アメリカ向けが前年に引き続き1位

であったが、中国向けの受注が前年比36.2%の大幅減となった(図表4-9、4-10)。

図表4-10 金属工作機械の受注動向 (中部経済産業局管内)



〈鉄鋼業〉

2012年の鉄鋼業の生産指数は91.1で、前年比3.2%上昇し2年ぶりに上昇した。これは自動車向けの増加などから、鋳鍛造品が同9.6%、冷間仕上鋼材が同5.0%上昇したことなどによる(図表4-11)。

図表4-11 鉄鋼業の動向

